

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：35302

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12953

研究課題名（和文）ジャйна教在家信者の不殺生戒に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive study on the non-violence vow of Jain laity

研究代表者

堀田 和義（HOTTA, Kazuyoshi）

岡山理科大学・基盤教育センター・准教授

研究者番号：90548687

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ジャйна教在家信者の不殺生戒の総合的解明を目的として、ジャйна教在家信者の行動規範を記した「シュラーヴァカ・アーチャーラ文献」と呼ばれる文献に見られる不殺生戒に関する記述を網羅的に解読・分析した。これにより、ジャйна教在家信者の行動規範における不殺生戒の位置付けを明らかにすると同時に、不殺生戒の具体的な内容を明らかにした。また、ヒンドゥー教や仏教の不殺生戒などとの比較を行うことで、インドの土着宗教に共通の要素を明らかにし、ジャйна教の独自性を浮き彫りにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

不殺生戒は、2000年以上前からインドの宗教に共通して見られるものであり、それを徹底してきたジャйна教の思想を解明することは、仏教やヒンドゥー教の思想の解明にも資するという点に学術的意義がある。また、動物倫理や環境倫理といった分野が注目を浴び、持続可能な社会の実現が求められる現代においては、ジャйна教徒の不殺生戒を中心に据えたミニマムな生活から多くのヒントを得られるという点に社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, with the aim of comprehensively elucidating the non-violence vow of Jain laities, we comprehensively examined and analysed the descriptions of non-violence vow in the Sravaka Acara texts, which describes the code of conduct of Jain laity. This clarified the position of the non-violence vow in the code of conduct of Jain laities, and at the same time clarified the specific content of the vow. Comparisons with Hinduism and Buddhism's non-violence vows were also made to clarify elements common to the native religions of India, and to highlight the uniqueness of Jainism.

研究分野：インド哲学

キーワード：シュラーヴァカ・アーチャーラ文献 不殺生戒 ジャйна教在家信者

1. 研究開始当初の背景

(1) 不殺生とジャイナ教

2,000年以上も前からインドの宗教に共通して見られる思想の一つに、「生き物を傷付けてはいけない、殺してはいけない」という不殺生の思想がある。インドが現在でも世界最多の肉食主義者を擁する国家である背景にはこの不殺生の思想があり、この点に関しては、動物倫理や環境倫理などといった様々な側面からも注目されている。

この不殺生をインドにおいて最も徹底してきた宗教がジャイナ教であることはよく知られている。そして、その非常に厳格な姿勢は様々な場面で言及されており、不殺生はジャイナ教の代名詞とも言えるものである。また、このジャイナ教の不殺生の思想は、インド独立運動の英雄ガンディーの「非暴力運動」にも大きな影響を与えたことで知られており、インドの宗教における不殺生の思想を解明するには、ジャイナ教の不殺生戒の解明が必須であると言える。

(2) 不殺生戒に関する先行研究

(1) で述べたように、インドの宗教における不殺生の思想を解明するうえでも、ジャイナ教在家信者の不殺生戒の解明は大きな重要性を持っているが、虫を吸い込まないためのマスクの着用や虫を踏みつぶさないための箒の携帯などといった外面的な部分ばかりが大きく取り上げられるのみで、一次資料に基づくジャイナ教の不殺生戒の解明はほとんど進んでいない状態であった。

そのように数が少ない中でも、比較的まとまった先行研究としては、R. Williams の *Jaina Yoga: A Survey of the Mediaeval Śrāvakācāras* (London Oriental Series 14, London, 1963年)、D. Bhargava の *Jaina Ethics* (Delhi, 1968年)、K. C. Sogani の *Ethical Doctrines in Jainism* (Jīvarāja Jaina Granthamālā 19, Solāpūr, 2001年) の中の不殺生戒を扱った章を挙げることができる。

しかしながら、いずれの先行研究においても、不殺生戒を扱った部分は在家信者の行動規範全体を扱った書物の一部分に過ぎない。また、R. Williamsの研究の一次文献への言及が恣意的であって、網羅的ではない点などが明らかになっているだけでなく、出版から50年以上の時間が経過しているため、その間に新たに参照可能となった文献も多い。そのため、これらの先行研究も多くの点で見直しが必要となっており、ジャイナ教在家信者の不殺生戒を研究するに当たっては、一次文献の解説に基づいて、改めて総合的に研究する必要があると考えられる状況にあった。

2. 研究の目的

(1) 一次文献に基づく不殺生戒の解明

上記のような背景により、本研究では、ジャイナ教在家信者の行動規範を記したシュラーヴァカ・アーチャーラ文献を主な対象とし、一次文献の正確な解説に基づいて、ジャイナ教在家信者の不殺生戒を網羅的・総合的に解明することを目的として研究を行った。このことは、ジャイナ教の不殺生戒がよく知られているにもかかわらず、一次文献に基づいた研究が非常に少なく、表面的な説明ばかりが流布している現況に鑑みるならば、それだけでも学術的な価値を有するものであったと思われる。

(2) 自業自得・業の理論との関係の解明

本研究は、シュラーヴァカ・アーチャーラ文献を主な対象としつつも、そのような不殺生の思想を支える根拠を明らかにするために、不殺生戒と自業自得を基本とする業の理論、そしてその背景にある輪廻転生に関する理論との関係の解明も目的として進めた。

(3) 隣接分野への正確な情報提供

さらには、本研究を遂行することによって、インド哲学や仏教学への寄与だけでなく、宗教学や死生学、応用倫理学などの隣接分野にも新たな知見を提供することを目的として研究を進めた。ジャイナ教の不殺生の思想は、動物倫理や食糧問題などについて論じる際にもしばしば言及されるが、信頼できる情報が少ないこともあって、深く議論されていないのが現状である。世界的にも古い文明のひとつであるインド文明で古代より現代に至るまで途切れることなく続

いてきた宗教の不殺生に対する考え方を解明することは、宗教的寛容や宗教的共生の必要性が叫ばれている現代の我々自身が直面している問題を解決するうえでも大いに役立つものと考えられるため、一次文献に基づいた正確な情報を隣接分野へ提供することには、大きな意義があると考えられた。

3. 研究の方法

(1) 一次文献の解読・分析

①シュラーヴァカ・アーチャーラ文献の解読・分析

ジャイナ教在家信者の行動規範を記したシュラーヴァカ・アーチャーラ文献の不殺生戒に関する記述を網羅的に解読するという方法を採用した。当該文献に関しては、これまでに、国内外の研究者の協力のもと57種類の文献を入手しており、世界的に見ても、この分野で最も多くの文献を扱っていると言える。文献の解読・分析に当たっては、以下のような方法を採用した。

(a) 行動規範における不殺生戒の位置付けの解明

シュラーヴァカ・アーチャーラ文献は膨大な量に及び、またそれぞれが異なった体系を持っているが、在家信者の行動規範全体における不殺生戒の位置付けだけでなく、不殺生戒が他の様々な戒に対して持っている影響力などにも注目して、解読・分析を行った。

(b) 不殺生戒の具体的な内容の解明

不殺生戒に関する記述には、殺生（もしくは不殺生）の定義、不殺生の対象となる存在、不殺生の違反行為に関する規定といった具体的な規定だけでなく、「なぜ殺してはいけないのか」「不殺生に例外（例えば、罪人の殺生、安楽死等）はあるのか」などに関する議論も見られるため、それらを業の理論や輪廻転生思想との関連も意識しながら分析し、ジャイナ教の代表的な見解を抽出した。

②ヒンドゥー教、仏教文献の解読・分析

ヒンドゥー教や仏教の不殺生戒に関しては、国内外においてこれまでに多くの研究の蓄積があるため、それらの先行研究の力を借りて比較を行い、インドの土着宗教に共通の要素を明らかにすると同時に、ジャイナ教の独自性を浮き彫りにした。

(2) 未知の文献の調査

インド国内には、海外で流通していない刊本や、いまだ出版されていない多くの写本が眠っていると予想されるため、インド国内の大学図書館や研究施設において調査を行うことも予定していたが、新型コロナウイルスの影響で、国外での調査はほとんど実施できなかった。しかしながら、近年、Jain eLibraryなどで積極的にアップロードされる資料などを丹念にチェックすることにより、先行研究でも言及されていない文献を新たにいくつか入手することができた。

4. 研究成果

初年度に、シュラーヴァカ・アーチャーラ文献全体を網羅的に解読・分析することにより、ジャイナ教在家信者の行動規範における不殺生戒の位置付けを明らかにする作業を行った。これにより、ジャイナ教において不殺生戒が占める位置はほぼ確定しており、出家修行者であるか在家信者であるかだけでなく、宗派や時代も問わず、最重要の誓戒として位置付けられていることが明らかとなった。また、不殺生に関するジャイナ教の見解を他宗教の不殺生と比較する作業の土台として、アーjeeヴィカ教やヒンドゥー教の聖者伝等の解読・翻訳研究も行った。これらは国内の研究では、初めての試みである。

2年目には、ジャイナ教在家信者の行動規範における不殺生戒の具体的な内容の解明に着手した。不殺生戒の説明に見られる、殺生や不殺生の定義、不殺生の対象となる存在、不殺生の違反行為に関する規定といった具体的な規定のみならず、「なぜ殺してはいけないのか」「不殺生に例外（例えば、罪人の殺生、安楽死等）はあるのか」などに関する議論を業の理論や輪

廻思想との関連も意識しながら分析することで、ジャイナ教の代表的な見解を抽出する作業を行った。それと並行して、不殺生に関するジャイナ教の見解を他宗教の不殺生と比較する作業の土台として、ヒンドゥー教の聖者の伝記やプラーナ文献等の解読・翻訳研究も行った。

3年目には、不殺生に関するジャイナ教の見解とインドの他宗教、とりわけヒンドゥー教や仏教の文献に見られる不殺生戒との比較に着手した。具体的には、ヒンドゥー教の法経に見られる不殺生思想、および初期仏典に見られる不殺生思想との比較を行い、インドの土着宗教に共通の要素を明らかにすると同時に、ジャイナ教の独自性を浮き彫りにする作業を行った。この成果の一部は、将来的に『ガウタマ・ダルマ・スートラ』の訳注研究として発表する予定である。他にも、不殺生思想の背後にあると考えられるジャイナ教の多面主義的な真理観を表明した学説誌に関する学会発表、不殺生に関するジャイナ教思想とインドの性愛学との関連を比較・分析する土台となる *Ratīśāstra* の解読・翻訳研究を行った。いずれも国内の研究では初めてのものであるが、とりわけ『ガウタマ・ダルマ・スートラ』に関しては、その訳注研究を発表すれば、その重要性にもかかわらずヒンドゥー法典の研究者が極めて少ない現状にあって、学界に大きなインパクトを与えられよう。

4年目、5年目にも、不殺生に関するジャイナ教の見解をヒンドゥー教や仏教の不殺生戒と比較した。具体的には、昨年度と同様、ヒンドゥー教の法経に見られる不殺生思想との比較を行ったほか、仏教に関しては、ネパールの仏教徒の手になる文献『ナーガラ・サルヴァスヴァ』の思想などの読解も進めた。他にも、より多角的な視点から光を当てるために、ヒンドゥー教のプラーナ文献、ジャイナ教の学説誌、建築論や聖者伝、俗語文法学の文献の読解を進めた。これらの成果の一部は、今後、訳注研究として発表を予定しており、いずれも国内ではほとんど研究がなされていない分野であるため、重要なものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 117
2. 論文標題 性愛をめぐるシヴァとパールヴァティーの対話 Ratisastra和訳(2)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 35-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田真啓・堀田和義	4. 巻 29
2. 論文標題 論理を照らし出す灯火 Nyayadipika和訳(1)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジャイナ教研究	6. 最初と最後の頁 57-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 出野尚紀・堀田和義	4. 巻 52
2. 論文標題 『マヤマタ』第13・14章：和訳と註解 インド古典建築論書の構成と内容(8)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中央学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 161-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 115
2. 論文標題 死後の世界と死者儀礼 Garudapuranasaroddhara和訳(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 55-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 28
2. 論文標題 ジャイナ教の学説誌について メールトゥンガ著『六哲学の確定』を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジャイナ教研究	6. 最初と最後の頁 21-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 28
2. 論文標題 メールトゥンガの学説誌 Saddarsanani rnaya和訳 (1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジャイナ教研究	6. 最初と最後の頁 51-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 出野尚紀・堀田和義	4. 巻 51
2. 論文標題 『マヤマタ』第12章 (2) : 和訳と註解 インド古典建築論書の構成と内容 (7)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 153-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 12
2. 論文標題 シャンカラの世界征服 Sankaradigvijaya第3章訳注	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 武蔵野大学人間学研究論集	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田真啓・堀田和義	4. 巻 23
2. 論文標題 ブラークリット語を照らす光 Prakrtaparakasa和訳(1)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏教文化研究論集	6. 最初と最後の頁 64-111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 70-1
2. 論文標題 ジャイナ教在家信者の不殺生戒 不殺生の定義的説明を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 114
2. 論文標題 性愛をめぐるシヴァとパールヴァティーの対話 Ratisastra和訳(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏教学セミナー	6. 最初と最後の頁 22-50
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 111
2. 論文標題 究極の放擲者 Paramahansa-upanisat和訳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佛教学セミナー	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 112
2. 論文標題 死後の世界と死者儀礼 Garudapuranasaroddhara和訳(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佛教学セミナー	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 110
2. 論文標題 酔っ払いの戯れ Mattavilasa和訳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佛教学セミナー	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 9
2. 論文標題 シャンカラの世界征服 Sankaradigvijaya第2章訳注	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武蔵野大学人間学研究論集	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田真啓・堀田和義	4. 巻 20
2. 論文標題 ゴースラ伝 Viyahapannatti第15章和訳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 仏教文化研究論集	6. 最初と最後の頁 62-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀田和義	4. 巻 5
2. 論文標題 ヴィクラマ王の冒険 Vikramacarita簡略版 訳注(二)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計6件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 堀田和義
2. 発表標題 ジャイナ教徒におけるしあわせのカタチ
3. 学会等名 「仏教・しあわせ」共同研究会ミニシンポジウム：大乘仏典・ジャイナ教・ブータン仏教からみる「しあわせ」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀田和義
2. 発表標題 ジャイナ教の教えとその歴史
3. 学会等名 大正大学総合仏教研究所公開講座(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀田和義
2. 発表標題 ジャイナ教と在家者戒
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第73回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀田和義
2. 発表標題 仏教が辿らなかった道 双子の宗教ジャイナ教の思想
3. 学会等名 弘法大師空海ご誕生1250年記念仏教講演会「仏教とその源流 祈りと儀礼」第5回（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田和義
2. 発表標題 ジャイナ教在家信者の不殺生戒 不殺生の定義的説明を中心に
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀田和義
2. 発表標題 ジャイナ教の哲学誌について メールトゥンガ著『六哲学の確定』を中心に
3. 学会等名 第36回ジャイナ教研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------